

平成 28 年度

千葉県公立高校入試

出題内容と傾向

大問	小 問(問題内容)	傾向分析
一	<p>※職場体験で地元のカフェの店主である浜田さんインタビューする場面。</p> <p>(1) 話し方に用いられた表現技法(選択肢) (2) 聞き手の相づちの効果(選択肢) (3) これまでの話のまとめ(選択肢) (4) 相手の答えから、さらに尋ねたい質問を推測する(2つ・選択肢)</p>	<p>聞き取り検査の出題は9年連続。昨年まで出題形式は毎年異なっていたが、今年も昨年同様、会話を放送した後、設問を放送し、印刷された選択肢を選ぶ形式。途中で設問→会話へと順序が逆になり戸惑う。印刷された聞き取りメモは枠のないシンプルなもの。出題形式は今後変化する可能性もある。さまざまな形式に慣れておきたい。</p>
二	漢字の読み(支度・佳境・危ぶまれる・巡って)	常用漢字の範囲内。今年も新常用漢字の出題はない。昨年度と比較して易しい。
三	漢字の書き(交う・照れて・朗報・候補・試金石)	教育漢字の範囲内。「試金石」が難しい。
四	<p>(1) 楷書のとときと筆順が変化する漢字(選択肢) (2) 漢文の正しい書き下し文(選択肢) (3) 指定とおりの解釈ができる文(選択肢) (4) 「待っています」謙譲語への批正(「……います」の形・8字)</p>	身近な言語生活に関する大問。今年も学校だよりに掲載するお知らせ文。過去には手紙、スピーチ原稿、会話文なども。書写の行書・楷書のちがいに関する問いが初めて出題された。漢文・文の解釈・敬語など多様な出題だが文法問題はなかった。
五	<p>山田英二「新しいグローバルビジネスの教科書」</p> <p>(1) 表現の内容説明(選択肢) (2) 語句補充(抜き出し) (3) 筆者の主張の根拠の説明文完成(選択肢) (4) 表現の内容説明(選択肢) (5) 比喩表現の説明(記述・使用語句指定・10～20字) (6) 本文の内容と論の進め方(選択肢)</p>	17・18年度は説明文、19～28年度は論説文の出題。今年も思考における「多様性」の価値を論じる文章。(1)・(3)・(4)が指示語を含む部分の内容把握、(2)が空欄補充の問題で、これまで以上に文脈把握問題が多く出題されている。(6)の文章構成に関する問いは4年連続の出題。昨年消えた記述問題が復活するなどの変化があった。
六	<p>森谷明子「春や春」</p> <p>(1) 季語「草笛」が表す季節(漢字1字) (2) 比喩内容(記述・使用語句指定・15～20字) (3) 適語補充(選択肢) (4) 人物の心情説明文完成(記述・2か所・Iは1語・IIは使用語句指定で10～13字) (5) 人物の心情理由(選択肢) (6) 人物の心情変化(選択肢)</p>	女子高生6人が自作の俳句を披露する場面を扱った小説。小問数は昨年より1問増え、一昨年同様6問となる。人物の心情把握に、各々が披露した俳句の内容をからめ、例年よりややレベルの高い出題となっている。昨年復活した朗読の仕方を問う設問が消えた。(2)・(4)のような記述問題は、人物の心情にかかわるものだけでなく、表現の内容を説明するものも出題される。
七	<p>「仮名世説」</p> <p>(1) 歴史的仮名づかい (2) 出来事の整序 (3) 適語補充(選択肢) (4) 表現の内容説明(選択肢) (5) 人物像の説明文完成(記述・2か所・4字)</p>	昨年消えた歴史的仮名づかいの設問が復活。漢文に関する設問はここで出題されることが多いが、今年は大問四から出ている。(2)の出来事の整序は、冒頭の主題と、過去の事実の部分を整理して読む。昨年と比較して本文の内容が易しいため読解がしやすく、基本問題が中心となっている。
八	<p>課題作文。言葉に関する投書と、資料1「ざっくり」の国語辞典の説明の変化、資料2「ざっくりとした説明」という言い方をしたことがある人の年代別割合のグラフを見て考えを書く。 ・字数は200字語原稿用紙(20字×10行)の範囲 ・二段落構成とし、前段には資料から読み取れることを根拠にして投書に対する考えを書き、後段には言葉の新しい使い方についての考えを書く。</p>	作文は4年連続して独立した大問からの出題。昨年は子供の頃の体験と成人後の生活状況との関連について書くという難しい課題だったが、今年は一昨年度での、日常の言語生活に関連する課題に戻っている。過去には「漢字」「情報機器」「読書」なども題材として出された。着目すべき点がわかりやすく、比較的書きやすい課題だったのではないだろうか。
総評	大問の数など大きな変化はないが、聞き取り検査から記述問題がなくなり、書写に関する問いが出されるなど出題内容に細かい変化があった。昨年と比較して基本問題が中心で、平均点は上がるだろう。大問四の書写、大問六の小説中の俳句の引用、作文の「言葉の新しい使い方」など、伝統的な言語文化に目を向けさせ、幅広い国語の能力を問う問題となっている。読解問題とともに、漢字の筆順、漢文の訓読、倒置法、俳句の季語など知識問題も出題され、問題集などでおさえおくのも効果的だ。	

数 学

大問		小 問(問題内容)	傾 向 分 析
1	数と式	(1) 整数の除法 (2) 累乗を含む四則計算 (3) 分数を含む式の減法 (4) 一次方程式 (5) 平方根と乗法公式 (6) 因数分解	(1)の2つの整数の加減または乗除、(2)の累乗を含む四則計算は例年通り。(3)の式の計算は、今年は分数を含むものであった。(4)は、昨年は等式の変形が出題されたが、今年是一次方程式であった。この小問の出題内容は、関数や比例式、連立方程式など毎年変化がある。(5)は、乗法公式を使う平方根の計算であった。(6)は、昨年は解の公式を利用する二次方程式が出題されたが、今年は因数分解であった。いずれも基本的な問題なので、時間をかけずに正確に得点することが望まれる。
		(1) 球の体積と表面積 (2) 資料と相対度数 (3) 方程式の応用 (4) 座標平面上の点と確率 (5) 辺を2:1に分ける点の作図	昨年と同様に小問5問の形式。昨年、千葉県で初めて出題された資料の活用が今年も(2)で出題された。角度の問題は3年連続で出題されなかった。空間図形は、(1)の球の体積と表面積についての選択問題で、公式を覚えていれば難しくない。(3)の方程式を用いて2けたの整数を求める問題も比較的易しい。(4)は、座標平面上のおうぎ形とさいころをからめた確率の問題で、三方の定理を用いて場合の数を求める、思考力を要する問題。(5)の作図は例年、正答率5%前後の難問だが、今年はさらに難度を増した。公立入試はもちろん、公立以外の入試でもほとんど見ないほどの難問で、柔軟な発想がないと解決に至らない。以上、大問2では、確率と作図がレベルの高い問題であった。
3	関数	(1) 直線の式 (2) ① 三角形の面積と点の座標 ② 回転体の体積	昨年に続き、今年も二次関数が出題された。(1)は点の座標から直線の式を求める基本問題。(2)①は三角形の面積の比から、放物線上の点の座標を求める問題で、座標を文字で表し、二次方程式をたてる力が必要。(2)②は回転体の体積を求める問題で、三方の定理を用いて辺の長さを求めていく。途中の計算が複雑なため、方針が立てられても答えにたどり着かない受験生もいたであろう。高い処理能力を要する問題であった。
		(1) (a), (b) 証明・穴埋め (c) 証明・記述 (2) 三角形の面積	例年通り、前半穴埋め、後半記述形式であった。昨年は、線分が角を2等分することの証明であったが、今年は三角形の相似の証明で、典型問題。(2)の三角形の面積を求める問題は、相似や三方の定理、等積変形などを駆使して導き出す難問であった。(1)の証明に出てくる平行線がカギとなる。手順が多く、図形に関する豊富な知識や計算力が試された。
5	操作に関する問題	(1) 操作回数と点灯している電球 (2) 操作回数と電球の状態 (3) 点灯している電球と条件を満たす場合の数	昨年は格子点の数を求める問題であったが、今年は5つの電球の点灯規則に関する問題で、倍数、最小公倍数がテーマである。(1)は基本問題。(2)は、5つの数の最小公倍数を求め、1からその数までのうち、5つのどの数の倍数にもならない数を数え上げなければならぬ。難問ではないが、地道な作業が必要であった。(3)は、条件を満たす場合を正しく理解し、規則性を把握して場合分けをしながらか求めていく問題。深い洞察力が高い処理能力のいざれかがあれば乗り切れる問題であった。
		総 評	平成10年度入試から続いている1～5の大問構成は変わらないが、小問数が22問に減り、配点にも変化が見られた。全体の構成と大問ごととの配点は昨年と同じであった。前半の1、2は基本的な問題が多く、確率は昨年同様。全体の構成と大問ごととの配点は昨年と同じであった。前半は難度の高い問題が多く、特に3、4、5の最後の問題は、高い計算力や思考力を要する問題であった。5の融合問題は、昨年より文章量は減ったが、題意を読み解く力や高い処理能力が試される問題であった。全体的に、易しい問題と難しい問題の差が大きく、時間配分を誤る危険性があるため、見直しを立てて問題に取り組み力も必要となった。中学校3年間の学習領域全般から幅広く出題されている。基本的な問題で確実に得点するためにも、日ごろからの練習の積み重ねが大切である。教科書の重要事項の理解を徹底し、数学的なものを見方や論理的に考える力を身につけて臨みたい。

英語

平成28年度 前期 千葉県立入試問題 出題内容と傾向

大問	小問(問題内容)	傾向分析
1	短い対話の最後の1文に対する受け答えを選ぶ問題 2問(選択)	No.1はHow many ~?, No.2はWhy don't you join us?に対する受け答えを選ぶ。No.1 16語, No.2 21語で、昨年より1語少ない。
2	No.1 対話文に合う絵を選ぶ問題 1問(選択) No.2 英文に合う絵を選ぶ問題 1問(選択)	新傾向。昨年、一昨年は、2問のうち1問が「1枚のイラストの中から正解の箇所を選ぶ形」だったが、今年は2問とも「4枚のイラストから正解を一つ選ぶ形」。No.1 68語, No.2 63語で、昨年より16語多い。9年連続して、英文の後に「質問文(Question)」が読まれる形。
3	No.1 英文の内容に関する英問英答 1問(選択) No.2・No.3 対話文の内容に関する英問英答 各1問(選択) No.1 Why does ~? No.2 Where did ~? No.3 What time did ~?	新傾向。昨年のNo.1には副詞節で始まる問い(When Jim was young, ~?)が出題されたが、今年は全て一昨年同様、疑問詞で始まる問い。疑問詞はWhy, Where, What timeと全て異なる。No.1 81語, No.2 69語, No.3 54語で、全体の総語数は昨年より4語少ない。
4	適語補充問題 英語で書かれたヒントと例文を参考にし、英単語を完成させる問題 4問(記述) * 語頭語尾指定。* ヒントと例文の語数は、(1)~(4)合わせて62語。*(1)はblue, (2)はexcited, (3)はcontinue, (4)はcommunication。	「英語で書かれたヒントと例文を参考にし、英単語を完成させる問題」になって7年目。今年もヒントは「文ではなく語句」で示されている。総語数は昨年より2語多い。(1)~(4)いずれも、例文通り、綴りがやや複雑なものが出題されている。
5	語形変化 文中の1語を、最も適当な形に直し、対話文を完成させる問題 2問(記述) 文中の5語を並べかえて、対話文を完成させる問題 3問(選択)	「語形変化(記述)」に変わって10年目。今年(1)はbest[最上級], (2)はbroke[過去形]。 (3)はwant to be like you, (4)はThe boy standing on your left is ~, (5)はI believe the things he said will come true. いずれも構造が複雑で難。
6	条件付英作文 絵の内容に合うように、英文(2文)に対する受け答えを考えて書く。語の数は20語程度。 1問(記述) * 英文は「エレン! お母さん(からの電話)よ。」	「絵の内容に合うように、英文に対する受け答えを考えて書く」形式になって7年目。今年は「外出中の母親からの電話に出たローラが、姉のエレンと会話をしている。この場面で、ローラの言葉に対してエレンは『何と答えると思うか。その言葉を英語で』書く」というもの。
7	短文読解問題 適語補充英問英答 ① 内容一致(和文) ② 内容一致(英文) ③ 内容一致(英文)	従来通り、3つの英文による読解問題。(3)は図表付き。(1)108語, (2)91語, (3)約145語で、全体の総語数は昨年より65語増。今年の題材は、(1)が「カナルーの英語名の由来」、(2)が「祖母から届いたはがき」、(3)が「プラネタリウムの上映案内」。
8	長文読解問題 英文への適語補充 英問英答 適語補充 英文への適語補充 内容一致(英文)	新傾向。英文の長さは昨年より100語程少ない約323語。昨年の英文には英文の内容に関連する2種のメッセージが挿入され、今年(1)の英文には対話文と地図があり、「短文+対話文+地図」から成る疑った内容の読解問題となっている。設問に関しては、シンブルに見たことのない「文脈」のうちの2問が、これまでになかった。昨年(4)問のうち1問が、今年「英文中への適語補充」と「英問英答」。「英文中への適語補充」は「内容一致」のオーストリアのオーストリアが追加された。
9	英語読解問題 適語補充 適語補充 適語補充 適語補充	対話文の長さは148語で、昨年より64語少ない。今年(1)の対話文は「犬を飼うことになった父と娘の会話」。読解量が一昨年並に戻り、読みやすかつたと思われ。設問も昨年同様比較的易しい。
総評	大問数・小問数・配点は昨年と全く同じだが、大問2と大問3のリスニングテストや大問8の長文読解問題では若干の変化が見られた。読解記事などさまざまなジャンルの英文に慣れ親しむ必要が、また、日頃からの基礎的な力、文法的な応用力を身につける必要がある。	

理科

大問	小問集合	小問(問題内容)	傾向分析
1	物理 化学 地学 生物	振動して音を発するものの名称を選ぶ 物質の中から、有機物を選ぶ 冷たく湿った「林-ツツ海気団」を書く シダ植物の特徴を選ぶ	教科書に準じた基本的な知識や語句で構成された小問集合。簡単な計算問題が出題されることもある。平易な問題が多いため、重要な語句や公式を整理し、確実に得点したい。
2	生物	肺のモデル装置で、ゴム膜が対応するヒトの体の部分と、その名称を選ぶ モデル装置に関連づけて呼吸のしくみを選ぶ (a) 細胞のまわりを満たす「組織液」を書く (b) 細胞の呼吸について、「二酸化炭素、水、エネルギー」のことばを用いて説明する	肺での気体の出入りが、横隔膜やろっ骨を動かす筋肉のはたらきにより行われていること、呼吸のしくみに関する問題。モデル装置を用いた実験は教科書に沿った内容であり、易しい。記述問題の対策として、指定された条件に沿って簡潔に要点をまとめる練習が必須である。
3	物理	必要な導線をかき加えて回路図を完成させる 抵抗器Xの抵抗値を求める 4つの回路で、電流計を流れる電流の大きさを求め、大きいものから順に並べる	電流の大問にしては計算問題が少なく、難易度は低い。回路図は自分で作図してみよう。直列・並列回路の特徴をつかみ、オームの法則を使った計算の練習は充分に行うこと。
4	化学	100gの水に溶ける物質の最大の質量の値「溶解度」を書く (a) 温度計の目もりを読み取る (b) 150gの水に溶ける最大の質量を求める 濃度が10%の水溶液200gを飽和水溶液にするために追加した物質の質量を求める	溶解度のグラフを扱った大問は、25年度前期選抜でも出題されている。(3)は、質量パーセント濃度10%の水溶液200gをつくる水は180gであることに注意。溶質と溶媒の質量についての理解が不十分だと、水が200gであると考えてイを選択し、誤りとなる。
5	地学	土砂の粒や生物の遺骸が固まってきた岩石「堆積岩」を書く れき、砂、泥の違いを選ぶ のようすについて選ぶ 露頭Dの地層を表した模式図を選ぶ	地形図と柱状図が題材の、基本的な問題。かぎ層を含む柱状図から、地層の広がりを正しく読み取れるようにしたい。(3)は、図2に標高を書き込んで火山灰の層の高さを比較すると、地層が南北に傾いていることがわかる。
6	物理	ばねばかりの値と同じになる力を選ぶ 物体を沈めたときの仕事の大きさを求める 水中における深さと浮力の関係を選ぶ 物体AとBをつないで、図5のように水中に沈めたときの、ばねばかりの値を求める 水中に沈めた装置の上面と下面で、ゴム膜の向きを整理して考えることが大切である。	実験1、2は、「水に沈まない物体を下から引いて沈める」という見慣れない実験で、力のはたらきについて確実な理解が問われる。水中の物体には下向き力(重力)と上向き力(浮力)がはたらくことを把握し、どの向きにどのよう大きな力がはたらいているかを整理して考えることが大切である。
7	地学	太陽の「南中高度」を書く 南中高度が季節により異なる理由を選ぶ 夏至の日に、透明半球に記録される太陽の道すじを選ぶ 地球への太陽の光の当たり方を作図する	太陽の動きに関する基本的な内容で、(1)(2)は一般的で平易な問題。(3)は、太陽と地球の位置関係を立体的な視点でとらえる訓練を重ねることのできる。透明半球を用いた観察や太陽の周日運動についてまとめよう。
8	生物	無性生殖の一つ「栄養生殖」を書く 無性生殖の例を全て選ぶ サツマイモの精細胞中の染色体の数を書く 種子に含まれる染色体の組み合わせとして、適当でないものを選ぶ	生物の成長と生殖に関する知識と理解を問う内容で、(1)~(3)はとくに基本的で易しい。有性生殖では、受精すると染色体数は体細胞と同じ数に戻ることを理解し、入試では頻出である「遺伝」の学習へと発展させたい。
9	化学	電子の移動の向きと、化学電池において亜鉛板が+と-どちらの極になるかを選ぶ 電流が流れる間に増加する陽イオンを選ぶ 銅板の表面で起こっている変化を、「電子、水素原子、分子」のことばを用いて説明する 備長炭を用いた電池の接続方法を選ぶ	電池とイオンを題材とした大問は24年度前期選抜でも出題され、頻出の単元である。(4)は実際に実験をしていなくても、図3にあてはめて考えれば電池の接続する部分はわかる。電極における電子の受け渡しをモデルで表したり、文章で説明したりする練習を。
総評		例年同様、大問1が小問集合、大問2~9は物理・化学・生物・地学の4つの領域から大問2題ずつの出題。実験、観察、資料をもとに、知識や技能を問う問題、結果が得られた理由を考察させる問題などがバラバラよく出題された。全体的に難問は少なく、1問1問を丁寧に解くことが得点につながる。今年の特徴として、文章記述問題の指定語が3語にふえた点が挙げられ、条件に沿って要旨をまとめる力がよりいっそう求められる。基本的な理解や知識の積み重ねから思考・判断して解答できる問題も多いので、教科書をよく読み、語句の meaning や、現象が起こる原理を正しく理解しておきたい。	

社会

平成28年度 前期 千葉県立入試問題 出題内容と傾向

大問	小問(問題内容)	傾向分析
1	<p>総合問題</p> <p>(1) 地理…四つの道県の畜産物の産出額と内訳 (2) 歴史…江戸時代のことからの年代順 (3) 地理…牛乳に関する資料の読み取り (4) 公民…商品が消費者に届くまでの流れ</p> <p>(1) 属する都府県の数が多い地方 (2) 三つの県庁所在地の1月と8月の気温と降水量 (3) I 愛知県を中心に広がる工業地帯 II 愛知県でさかんに生産される工業製品 (4) ① 地形図中の斜線の部分の面積 ② 地形図の読み取り</p>	<p>千葉県の畜産業をテーマにした総合問題。(1)(2)(4)は各分野の基本的な知識を問う問題。(3)は性別・年代別の数値を、問われている項目について正確に読み取り、正誤を判断する。</p> <p>(1)では各地方の都府県数が、(2)では各都市の気候の特色が問われている。(3)Iの「中京工業地帯」と(3)IIの中京工業地帯で輸送用機械がさかんに生産されていることは日本地理の基本事項。(4)①は面積を計算で求めるためやや難、(4)②の地形図の読み取りは易しい。</p>
2	<p>日本地理</p> <p>(1) 本初子午線が通る大陸名 (2) イスラム教の信者の割合が最も高い国 (3) ロサンゼルスと日本の時差 (4) 夏と冬で風向きが変わる風の名称 (5) 3か国に関する資料の読み取り</p>	<p>(1)の本初子午線の位置や(4)の「季節風」は確実に得点にしたいところ。(2)は写真からイスラム教を導き出すことがポイント。(3)の時差の問題はよく出題されるのでしっかり練習しておこう。(5)は資料中の数値を正確に計算する必要がありやや難。</p>
3	<p>世界地理</p> <p>(1) 冠位十二階の制度の目的(短文記述) (2) 法然についての説明 (3) 鉄砲伝来と同じころに起こったできごと (4) 開国直後の日本の貿易に関する説明文完成 (5) 井伊直弼が吉田松陰らを処罰したできごと</p>	<p>(1)は歴史分野では頻出の短文記述問題。(2)の文化と(3)の世界と日本のできごととの関連は苦手とする受験生が多いので、十分な対策が必要。(4)の開国直後の貿易の様子や(5)の「安政の大獄」はやや細かい知識が必要となる。</p>
4	<p>歴史分野(前近代)</p> <p>(1) 領事裁判権が撤廃された時の外務大臣 (2) 北京の各国の大使館が包囲されたできごと (3) 国際連盟についての説明文完成 (4) 太平洋戦争中の日本の様子 (5) 1945年～2001年のことからの年代順</p>	<p>(1)(3)は近・現代史の細かい人物名が問われているのでやや難。(2)の選択肢にある中国のできごととはしっかり区別して覚える必要がある。(4)(5)は昭和～平成時代の日本国内の様子を、歴史的なできごとと関連づけて理解しておく。</p>
5	<p>歴史分野(近現代)</p> <p>(1) 比例代表制の議席配分のしくみ(短文記述) (2) 政権を担う政党と担わない政党 (3) 投票率の資料の読み取り、地方自治を表す語</p>	<p>(1)は「政党」「得票」という指定語句から解答を導く。(2)は政治分野の基本問題。(3)のXは資料中の年度の数値を丁寧に確認して正誤を判断する。</p>
6	<p>公民(政治)分野</p> <p>(1) 銀行が利益を得るしくみ(短文記述) (2) 財政政策についての説明文完成 (3) 金融政策についての説明文や図の完成</p>	<p>(1)は三つの指定語句の意味を把握しているかがポイント。(2)は経済分野の基本問題。(3)の「公開市場操作」では、資金の流れをつかんでおこう。</p>
7	<p>公民(経済)分野</p> <p>(1) 1948年に国際連合で採択された宣言 (2) 子どもの権利条約にある四つの権利</p>	<p>(1)は基本的な語だが、「国際人権規約」と混同しがちな語。(2)は各文から権利を判別しやすしい。</p>
8	<p>公民(国際)分野</p> <p>大問数や地理・歴史・公民の三分野の配分は例年とほぼ同じであった。短文説明記述問題が地理分野からは出題されず、歴史分野から1問、公民の政治分野から1問、公民の政治分野から1問出題された。語句記述問題では、1(4)「流通」、2(3)「中京(工業地帯)」、6(2)「与党・野党」、7(3)「公開市場(操作)」、8(1)「世界人権宣言」など漢字指定のものが多く出題された。三分野の中では、受験生が苦手とする文化や産業からの出題が目立った歴史分野の難易度が上がった。平均点は昨年度を下回ると思われる。</p>	<p>(1)は基本的な語だが、「国際人権規約」と混同しがちな語。(2)は各文から権利を判別しやすしい。</p>
総評		

大問	小問(問題内容)	傾向分析
一	<p>※部活動紹介の原稿を顧問の先生に確認してもらう場面の会話と、直した原稿を読み上げる場面。</p> <p>(1) 先生の助言の内容(選択肢) (2) 直喩から隠喩への修正による工夫と効果(選択肢) (3) 指摘を受けた言葉とその理由(2か所・言葉…抜き出し・理由…選択肢)</p>	<p>昨年は前期同様4問の出題だったが、今年は前期より1問少ない3問の出題。出題形式は前期同様、会話文と設問を交互に読み上げるもの。問題用紙に印刷されている原稿と対照しながら解く形式は新しい。朗読のコツなどの知識も必要な設問となっている。</p>
二	漢字の読み(仰ぐ・赴く・吟味・掘削)	常用漢字の範囲内。「掘削」がやや難しい。
三	漢字の書き(夢・織り・除去・祝辞・心機一転)	教育漢字の範囲内。「祝辞」がやや難しい。
四	<p>相沢沙呼「ココロ・フアインダ」</p> <p>(1) 品詞の識別(助詞と助動詞・選択肢) (2) 回想場面の指摘(抜き出し・終わりの5字) (3) 人物の心情(選択肢) (4) 通語補充(選択肢) (5) 人物の言葉の受け止め方についての説明文完成(2か所・記述10～15字と選択肢) (6) 人物の心情(選択肢)</p>	<p>小問数は前期同様6問で、昨年の後期入試より1問減っている。文法は昨年の2問から1問に減った。(1)の助詞・助動詞の識別はかなり高度な知識を要する。設問内容は前期同様、人物の心情把握の問いが中心であるが、場面の状況をつかみにくく、読み進めるのにやや苦労する。(5)の記述は、昨年同様人物の心情に関わるものが出題されている。</p>
五	<p>平木典子「アサニシシンの心 自分も相手も大切に にするコミュニケーション」</p> <p>(1) 表現の内容説明文完成(抜き出し・4字) (2) 筆者の主張の理由(選択肢) (3) 指示内容の把握(選択肢) (4) 接続語補充(2か所・選択肢) (5) 筆者の考えに合う具体例(選択肢) (6) 比喩表現の内容(記述・2語指定・25～35字)</p>	<p>前期同様論説文の出題。小問数は前期同様6問で、昨年の後期入試とも同数。前期と比較して文脈問題がやや少なく、内容の読解問題が中心である。選択肢一つ一つを丁寧に読んで内容を吟味させるねらいがみられる。(5)のような本文内容の応用は昨年の後期入試にもみられた。(5)の応用、(6)の記述問題はやや難しいが、他は基本問題が中心である。</p>
六	<p>「雑談集」</p> <p>(1) 歴史的仮名づかい (2) 表現の内容(抜き出し) (3) 表現の解釈の説明文完成(2か所・選択肢と記述7～12字) (4) 二つの文章に共通する内容(選択肢)</p>	<p>小問数は計4問で、昨年の後期入試と同様。殺生を禁じられているはずの上人(僧)が、こつそり卵や魚を食し、家来の小法師がそれを見抜くという似た趣旨の説話を二つ並べている。前期や昨年の後期同様基本問題が中心。漢文に関する問いは3年連続出題がなかった。</p>
七	課題作文。球技大会実行委員のプレゼンテーション(資料1・全4ページ)について、「大会の目的を示すページ(資料2)が必要」という委員の指摘を受けて、それを資料1のどこかに挿入する。・字数は140字語原稿用紙(20字×7行)の範囲・一段落構成とし、ページの挿入先とそのように考える理由を資料2の言葉を引用して説明する。	<p>作文は40分の検査時間に配慮して、前期より60字少ない出題で、一段落構成という条件が固定化している。提示された資料をよりよいものにするという趣旨だが、資料の一部を引用し、理由を論理的に説明するためによいようにまとめるかがカギとなりそう。</p>
総評	40分の検査時間に配慮し、前期の大問四に相当する「語句の知識」に関する大問がなく、大問7題の出題が固定化している。作文も例年同様前期200字から140字へと減らしてある。聞き取りでは話題として取り上げられている放送用原稿が本紙に印刷されているという形式が新しい。今年では文学的文章と説明的文章の順序が入れ替わり、先に文学的文章を解く形になっている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域を重視する傾向は前期入試と同様で、おおむね基本問題が中心であるが、表現内容を説明する記述問題、古文の解釈など、やや難しい問いも含まれている。受験本番に向けての準備としては、まず全部の設問にじっくり取り組み、傾向をふまえた上で、時間内に解き終わる訓練へとつなげるとよい。記述や作文も条件に従って書く練習を繰り返しておこう。前期同様、いろいろな形式にそなえて数年分の過去問にあたっておけばなお安心だろう。	

数 学

平成28年度 後期 千葉県立入試問題 出題内容と傾向

大問	小 問(問題内容)	傾 向 分 析
1	数と式 (1) 整数の減法 (2) 果乗を含む四則計算 (3) 分配法則と式の減法 (4) 連立方程式の解き方 (5) 平方根の計算 (6) 二次方程式の解き方	昨年同様、小問6問の構成。(1)の2つの整数の加減または乗除、(2)の四則計算、(5)の平方根の計算は6年連続の出題。(3)の分配法則と式の減法は、今年は分数を含む計算であった。(4)は、昨年は一次方程式であったが、今年は連立方程式であった。(6)は、昨年は因数分解であったが、今年は解の公式を利用する二次方程式で、25年度以来の出題であった。どの小問も非常に基本的な問題で、配点も5点と高いため、確実に得点することが望まれる。日頃から、ミスなく計算する練習をしておきたい。
2	小問集合 (1) 四角錐の投影図 (2) 資料と平均値 (3) 二次関数 (4) 確率 (5) 75° になる角の作図	昨年同様、小問5問の構成。昨年出題されなかった空間図形が、(1)で出題された。四角錐の投影図を4つの選択肢から選ぶ易しい問題であった。(2)の資料の問題は、後期入試では初。度数分布表から平均値を求める基本問題であった。昨年、3で出題された二次関数が、(3)で出題された。(4)の確率と(5)の作図は6年連続の出題。確率は、さいころの一般的な問題。作図は、正三角形と角の二等分線から、 75° になる角を作図するもので、思考力を要する問題ではあるが、前期入試の作図ほど難しくはない。どの小問も標準的な問題で、配点が高いため(4の証明記述と同じく6点)、ケアレスミスは許されたいだろう。
3	図形の移動と関数 (1) 重なっている面積を表す式 (2) ① 重なっている面積の最大値 ② 重なっている面積と移動した時間	昨年は一般的な二次関数の問題であったが、今年は図形の移動と関数を絡めた問題で、図形と関数の融合問題は24年度以来であった。内容は、昨年よりも易化した。(1)は重なっている部分の面積を式で表す基本問題。(2)は、①で重なっている部分の面積の最大値を求め、②では、①の答えを利用して方程式を立てる流れになっている。(1)(2)とも、相似な三角形を利用して辺の長さを求める。比較的取り組みやすい内容であった。
4	平面図形 (1) (a), (b) 証明・穴埋め (c) 証明・記述 (2) 三角形の面積の比	昨年同様、証明問題と計量問題1問ずつの構成。証明問題は、穴埋めと記述の形式で、昨年は穴埋めが3箇所あったが、今年は2箇所が減り、配点も変わった。また、平行四辺形になる条件が選択肢で出題された。(2)は、(1)で証明した相似な三角形から、2つの線分が平行になることに気付けるかがポイント。この小問の配点は、3点(昨年)から5点に増えた。
5	規則性の融合問題 (1) 点の座標 (2) 移動した時間 (3) 点の座標を表す式 (4) 三角形の面積と移動した時間	昨年よりも文章量が減り、会話文もなくなった。また、昨年出題されたグラフの作図が今年はなかった。座標平面上を点が動く規則性の問題で、具体例が多く示されているため、規則が把握しやすい。小問数も昨年より1問減り、4問になった。(4)で解く二次方程式の係数が少し大きいものの、全体的に複雑な計算は見られず、規則さえ掴めれば見通しのつく問題であった。
総 評		1～5の大問構成は昨年後期と同様だが、小問数が2問減り、配点にも変化があった。昨年に続き、三方の定理を用いる問題が出題されなかった。昨年以上に難問は少なく、全体的に易しい印象を受ける。5の規則性の問題も、文章量が減り、取り組みやすくなった。昨年よりも難易度は下がったが、正答率の高い問題の配点が増えるなどの変化があった。前期入試同様、中学3年間の学習領域全般から幅広く出題されているので、教科書の重要単元をきちんと理解し、論理的な思考力を身につけ、応用問題に取り組める力をつけておきたい。また、後期入試においては、時間配分にも気をつけ、配点が高く難易度の低い1、2で確実に得点する処理判断力も必要であろう。

英語

大問	小問(問題内容)	傾向分析
1	<p>リスニングテスト</p> <p>No. 1 英文に合う絵を選ぶ問題 1問(選択)</p> <p>No. 2 対話文に合う絵を選ぶ問題 1問(選択)</p> <p>No. 3 対話文の内容に関する英問英答 1問(選択)</p> <p>No. 4 英文の内容に関する英問英答 1問(選択)</p> <p>No. 5 対話文の内容に関する英問英答 1問(選択)</p> <p>※No. 1・No. 2 What did ~?, No. 3 What are ~?, No. 4 What will ~?, No. 5 Which is true ~?の問い。</p>	<p>例年通り, No. 1とNo. 2は「絵」を選ぶ問題。No. 1は47語の英文, No. 2は35語の対話文で、どちらとも英文の後に「質問文(Question)」が読まれる形。今年も、英文と対話文の順番が入れ替わり、一昨年の順番に戻った。No. 3～No. 5は昨年引き継ぎ、「英語」を選ぶ問題。No. 3は50語の対話文, No. 4は61語の英文, No. 5は52語の対話文の内容に関する英問英答。質問は昨年同様、全て疑問詞で始まるものだが、No. 5のWhich is true ~?は新出。No. 5は選択肢も「語句」ではなく「文」だったため、やや難。全体の語数は昨年より99語減。</p>
2	<p>語形変化</p> <p>文中の1語を、最も適当な形に直し、対話文を完成させる問題 2問(記述)</p> <p>文中の5語を並べかえて、対話文を完成させる問題 3問(選択)</p>	<p>例年通り, 語形変化2問。(1)は women[複数形], (2)は過去分詞 written を書く問題。</p> <p>例年通り, 語順整序3問。(3)は動名詞を含む without saying ~の文, (4)は SVOO を含む Would you tell me where to change trains ~の文, (5)は間接疑問文を含む how long we have known each other? の文。全てややや難。</p>
3	<p>条件付英作文</p> <p>質問に対する答えが完成するように、(A)は2つの文(I think so, too. または I don't think so.)のいずれか一方を選んで○で囲み、(B)には(A)を説明する内容の英文を書く。2文以上可。</p> <p>※(A)、(B)2か所合わせて8点。(例年通りの配点。)</p>	<p>3年連続して、「(A)は2つの文(I think so, too. または I don't think so.)のいずれか一方を選んで○で囲み、(B)には(A)を説明する内容の英文を書く」という形式。今年の質問は Some people say that it is better to travel in foreign countries than in Japan. What do you think about this?。(B)には自由に15語程度の語句を補う。</p>
4	<p>短文読解問題</p> <p>(1) ① 図表の内容に関する英文(4文)を読んだで、質問(1文)に対する答えを選ぶ問題 1問(選択)</p> <p>② 図表の内容に関する内容一致(英文) 1問(選択)</p> <p>※今年の図表は「オーダー T シャツのチラシ」。</p> <p>(2) 適語補充 2問(選択)</p>	<p>新傾向。例年通り, 2種の英文による読解問題だが、今年(1)と(2)の順番が入れ替わり、図表の位置が右から左に移った。図表を扱った設問の①に関しても「1文(15語)中に英単語を補うもの」から「4文と質問文(合わせて55語)を読み、正解の金額を選択肢から選ぶもの」に変わった。図表内の語数は約150語で昨年より55語程多く、どちらの設問も図表全体の内容から答えを導く必要があるため、ややや難。(2)は「年賀状」に関する90語の英文。昨年より10語程少ない。</p>
5	<p>長文読解問題</p> <p>(1) 適語句補充 1問(記述)</p> <p>(2) 適文補充 1問(選択)</p> <p>(3) 内容一致 1問(記述)</p> <p>(4) 内容一致 2問(選択)</p>	<p>新傾向。今年の英文は、314語の「兄と妹に関する物語文」と82語の「兄から妹へのバースデーカード」の2つから成るもの。英文の総語数は396語で、昨年より22語少ない。設問数は昨年同様5問だが、内容一致を除く3問の形式が変わった。(3)の内容一致文完成は、カードの各行文頭の文字を読んでもらわれる「I LOVE YOU」という文字をもとにして、英文の中に loves を書くという凝ったもので、ややや難。</p>
6	<p>対話文読解問題</p> <p>(1) 適文補充 1問(選択)</p> <p>(2) 適文補充 1問(選択)</p> <p>(3) 適文補充 1問(選択)</p> <p>(4) 適文補充 1問(選択)</p>	<p>対話文への適文補充問題4題。昨年は、4題のうち3題の選択肢が「語句」だったが、今年はずべて「文」になり、一昨年の形に戻った。対話文の長さは昨年より5語多い160語。今年も「クリスマスズディング」という食べ物に関する内容。</p>
総評	<p>大問数・小問数・配点とも昨年と同じ。昨年同様、前期選抜とほぼ同じ形式の中で、大問や小問を削って問題が構成されている。ただし、設問形式に関しては、大問4と大問5で大きな変化が見られた。単語や文法などの基礎的な力を身につけるとともに、日頃からさまざまなジャンルの英文に慣れ親しみ、数多くの問題に取り組むことが不可欠だ。</p>	<p>前期選抜より試験時間が10分短いため、前期選抜が構成されている。ただし、設問形式に関しては、日頃からさまざまなジャンルの英文に慣れ親しみ、数多くの問題に取り組むことが不可欠だ。</p>

理科

平成28年度 後期 千葉県立入試問題 出題内容と傾向

大問	化学	生物	物理学	地学	物理	化学	生物	小問(問題内容)	傾向分析
1	気体の性質							(1) 気体を集めた試験管に入れた線香の火がしばらくしてから消えた理由を、「三角フラスコ、ゴム管、ガラス管」のことは用いて説明する (2) ① 発生した気体の化学式「CO ₂ 」を書く ② 下方置換法で集められる気体の性質について説明する (3) 二酸化炭素の水溶液の性質と、実験の方法以外で二酸化炭素を発生させるのに用いる物質を選ぶ	気体は1年生で学習する内容だが、さまざまな単元に関連して出題される。気体の発生方法や性質をカードなどにまとめ、新しい情報はそのついで追加するなどして、正確に覚えていこう。今年度は、前期選抜でも指定語が3語の記述問題が出題された。すべての指定語を適切に使用して表現できるとよい。下書きをしてから解答するとよい。
2		台風						(1) 台風の目の周りをとりまき「積乱雲」を書く (2) P点と同じ気圧の地点を選ぶ (3) 3地点の、気圧、風向・風力を表す観測結果を選ぶ	台風を題材とした大問。(3)は、台風が低気圧であることを理解し、台風の進行方向に対して右側と左側で風がどの向きにふくかを考える問題で、苦手とする生徒も多そう。
3		無脊椎動物						(1) ミジンコの体のつくりと運動のようすを選ぶ (2) ムカデ、ザリガニ、バッタ、アサリ、ウニを特徴ごとになまかま分けしたものを選ぶ (3) ① 甲殻類、昆虫類を含む「節足動物」を書く ② ムカデとアサリを分類する図の場所を選ぶ	無脊椎動物の体のつくりや分類についての、細かな知識を問う問題。節足動物は、甲殻類や昆虫類だけではないことを再確認しておきたい。覚える用語が多いので、用語の意味も自分で説明できるようにしておこう。
4			運動と力					(1) a点から0.3秒間の、台車の平均の速さを求める (2) ① おもりが床に達するまでの、時間と台車の速さの関係を表すグラフを選ぶ ② 台車が運動する間の、時間と運動の向きにはたらく力の関係を表すグラフを選ぶ (3) 机を傾けると台車が速さを速くしながら運動した理由を、「重力」のことはを用いて説明する	台車につけたおもりが床につくまでは、同じ大きさの力が台車にはたらき続け、床についたあとは、進行方向に力がはたらかなくなる。それぞれの運動における力のはたらきを理解しよう。実験2は見慣れない内容で、重力の分力作図するなど、台車にはたらく力の向きを整理して考えることが必要となる。
5				月食				(1) 惑星のまわりを公転する天体「衛星」を書く (2) ① 図から、地球と月の公転の向きを選ぶ ② 図から、月食のときの月の位置を選ぶ (3) 月食中に月が欠けていくようすを選ぶ (4) 月食(満月)から6日後の、午後10時過ぎに見られる月の位置と形を選ぶ	月食と月の見え方を問う問題。地球は1日約1度、月は1日約12度ずつ公転するので、地球よりも月の動きのほうが速く、月は左から欠けていく。(3)は、地球の影が月より大きく、月が完全に影の中に入ることからEを選ぶが、迷った生徒も多かったのではない。
6					磁界			(1) 磁力線と、磁界の向きを表し方を選ぶ (2) コイルの周囲での方位磁針のようすを選ぶ (3) コイルに磁石を近づけたり、遠ざけたりしたときに、検流計の針が右に振れるものを選ぶ (4) 棒磁石がコイルを通した後の、検流計の針が振れる向きと大きさについて説明する	電流と磁界についての理解をみる問題。コイルのまわりの磁界の向きは、図をもとに見てポイントが多いため、図をよく見てポイントをつかもう。(3)は、実験2から、棒磁石がコイルを通する前後で誘導電流の向きが変わっていることを読み取って考える。
7						銅の酸化		(1) 銅についての説明を選ぶ (2) (a) 銅の酸化を表す化学反応式を書く (b) 銅の質量と、化合した酸素の質量の関係を表すグラフをかく (3) 銅を2.50gにしたときの、加熱後のステンレス皿を含めた全体の質量を求める	化学変化と物質の質量について問う問題。計算問題(3)は、順を追って計算すれば難しくはない。化学反応式やグラフは書き方や読み取り方のルールを理解しておこう。実験の手順や器具の使い方もよく問われるため、授業では実験に主体的に取り組みむようしたい。
8		植物のはたらき						(1) アジサイの花の、Aの部分の名称を選ぶ (2) 葉をあたためたエタノールにひたした理由を説明する (3) ① 葉でつくられたデンプンのゆくえを選ぶ ② 葉が光合成を行っているときとしないときの、袋の中の気体の割合を選ぶ	アジサイを題材にした、基本的な内容。(1)は教科書をすくみずみずみ読んでおかないと7と答えてしまいがちだ。近年、千葉県立入試では、教科書に小さく掲載されている写真を題材にした問題もしばしば見られる。本文だけでなく、図や写真も確認しておくこと。
総評								例年通り大問8題の構成で、物理・化学・生物・地学の各分野から、バランスよく出題された。教科書に沿った基本的な設問も多い中、教科書通りではあるが細かい知識を問う5(3)や8(1)、教科書の内容を新たな視点から考える大問3など、多方面にわたる知識と柔軟な思考力が必要となる問題も目立ち、平均点は昨年度(62.4点)よりも下がりそう。記述問題の数は昨年度の1問から5問へと大幅に増え、文章で表現する力が問われるとともに、会話文や資料などの長文を読解する力が必要となる部分も多い。問題の難易度によってめりめりはりの時間配分をし、試験時間を有効に使うことが必要だ。	

社会

大問	小問(問題内容)	傾向分析
1	<p>総合問題</p> <p>(1) 地理…四つの県の花きの産出額, 総面積, 昼夜間人口比率, 野菜の収穫量</p> <p>(2) 公民…通貨と通貨を交換する比率</p> <p>(3) 歴史…カード中の人物が活躍した年代の古い順</p>	<p>千葉県の農業をテーマにした総合問題。(1)は昼夜間人口比率とさかんに生産される野菜から各県を特定する。(2)は経済分野の重要語句だけがやや難しい。(3)は年代を特定し易い。</p>
2	<p>日本地理</p> <p>(1) 四つの県の中で, 県名と県庁所在地名が異なる県</p> <p>(2) 米の収穫量上位5位の道県に関する資料</p> <p>(3) 大都市や工業地域の臨海部に立地している発電所</p> <p>(4) 新旧の地形図を読み取った文章の正誤</p>	<p>(1)は県名と県庁所在地名に関する基本問題。(2)は資料2中の会話文を丁寧に読み取って解答する。(3)は説明文と発電所の分布から火力発電所を解答し易い。(4)は地図記号と土地利用の様子, 方位に関する知識が必須。</p>
3	<p>世界地理</p> <p>(1) 五つの国が属していない州名</p> <p>(2) 地球儀上で, 本初子午線を延長し地球を一周させるときに描かれる線の地図中での位置</p> <p>(3) 四つの都市の月平均気温と月降水量のグラフ</p> <p>(4) 四つの国に関する資料の読み取り</p>	<p>(1)は比較的受験生になじみ深い五つの国が出ているので州名を特定しやすい。(2)は問われている内容が難しく, 四つの選択肢の間隔がせまいこともあり難。(3)は世界地理の基本問題。(4)は細かい計算が必要でやや難。</p>
4	<p>歴史分野(前近代)</p> <p>(1) 天智天皇の後継者をめぐめる争い</p> <p>(2) 藤原氏が行った政治についての説明(短文記述)</p> <p>(3) 戦国大名が城の周辺につくったもの</p> <p>(4) 長篠の戦いの後に起こったできごととの年代順</p> <p>(5) アヘン戦争についての説明文完成</p>	<p>(1)は同時期のイ「白村江の戦い」とウ「壬申の乱」で悩む受験生が多かっただろう。(2)は三つの指定語句を上手く使って記述できるかがポイント。(3)は歴史分野の基本語句。(4)は文法, (5)は国際関係に関する問題でやや難。</p>
5	<p>歴史分野(近現代)</p> <p>(1) 明治政府が近代的学校制度を定めた法令</p> <p>(2) フランスの画風に学び, 示された絵画(「湖畔」)を描いた人物名</p> <p>(3) 1917年のころの日本国内の経済の様子</p> <p>(4) 5枚のカード中の「この国」が示している国</p>	<p>(1)は明治時代の諸改革,(3)は第一次世界大戦に関する基本問題。(2)は受験生が苦手とする近代の絵画に関する問題で, 選択肢にも画家の名前が並んでおり選択しづらい。(4)も近代史における世界各国の理解が必要で難。</p>
6	<p>公民分野(経済分野)</p> <p>(1) 独占禁止法を運用するために設置された機関</p> <p>(2) 日本の社会保障制度の四つの柱のうちの, 公的扶助にあてはまるもの</p> <p>(3) 介護に関する資料の読み取り</p>	<p>(1)は経済分野の基本語句。(2)は社会保障の四つの柱の内容に関する理解が必須。(3)は示されている資料は易しいが, 各項目の数値を根拠強く読み取っていく必要がある。</p>
7	<p>公民分野(政治分野)</p> <p>(1) 違憲審査権についての説明(短文記述)</p> <p>(2) 内閣総理大臣とともに内閣を組織する大臣</p> <p>(3) 日本における刑事裁判についての説明</p>	<p>(1)は指定語句から解答を導きやすい短文記述問題。(2)は内閣に関する基本問題。(3)は刑事裁判についてのやや細かい内容が問われる。</p>
総評	<p>大問数が7問で, 地理・歴史・公民の三分野の配分や, 出題形式は昨年とほぼ同じである。短文記述問題は, 昨年同様前期試験より少なく2問の出題であった。大問3(2)では, 頭の中で地球儀をイメージし, 経度180度の経線を選ぶ難問。歴史分野は受験生が苦手とする文化や産業に関する出題が多かったこともあり, 難易度が上がった。公民分野では, 大問1(2)の「為替」を答えさせる語句記述問題など一部細かい知識を問うものも見られたが, おおむね基本事項からの出題であった。語句記述問題で漢字指定の問題が多く, 歴史分野の難易度が大きく上がったため, 平均点は昨年度より下がると思われる。</p>	

